

担い手育成特定資産事業 活用事例紹介 鈴木 悠斗さん(遠野市)

取材担当 中部農業改良普及センター 遠野普及サブセンター 田中真衣

遠野市で令和7年4月にミニトマトで独立した鈴木悠斗さんをご紹介します。

鈴木さんは高校卒業後、花巻市で他産業に従事していましたが、「なんか違うなあ」と転職を考えていたそうです。そのような中、遠野市出身の方と結婚し、奥様の実家の農作業を手伝っていたところ、「これだ!」と気が付き、就農を決意しました。令和5年からは遠野市内の農業法人で2年間研修生として雇用され、ミニトマトの栽培技術を身に付け、2年目には部門を任されたそうです。

鈴木さんは担い手育成特定資産事業「新規就農スタートアップ支援事業」を活用し、防除に使うクローラスプレーヤーやハウスの修繕資材を購入しました。「クローラスプレーヤーを使用すると葉裏まできちんと薬液が付くため、手散布よりも効率よい防除が出来た」と導入の効果を実感しています。

今年は就農初年目のため、「作業計画の段取りが大変」とのことですが、「できることが増えることや、自分で考え作業し、現場で答え合わせをして合っていたと感じた時は、とても嬉しい」と語り、「苗の育苗や作業を手伝ってもらったりし、前職の時よりも人間関係が楽しい」と笑顔を見せてくれました。

将来的には「人の繋がりを大事にしながら、地域に根差した農業をしたい」とのこと。今後、遠野地域の農業を盛り上げていくことが期待されます。



笑顔でミニトマトの収穫中



導入したクローラスプレーヤー